

令和5年度「ドリカム人づくり推進事業」
高等部総合的な探究の時間
「ねぶた絵をアップサイクルしよう」

高等部 A・B・C 組

高等部 A・B・C 組では、青森県を代表する夏祭り「ねぶた（ねぶた）祭」が終わった後、廃棄されてしまうねぶた絵に着目し、SDG s の観点から資源のアップサイクルに取り組んだ。アップサイクルとは、廃棄物に手を加えて物の価値を高めることであり、廃棄されるはずだった物の寿命が伸びることにもつながる。SDG s の 17 の目標のうち、目標 12「つくる責任、使う責任」に関連する活動である。

一方、校内では地元でコーヒーの自家焙煎を行っている「新寺町珈琲」から廃棄してしまうコーヒー豆を提供していただく機会があり、活用方法を模索していた。そこで、ねぶた絵とコーヒー豆を組み合わせ、コーヒーの香りを愉しむ「香り袋」として廃棄物に新たな付加価値を付けるアイデアを考えた。

そこで、県内で先進的にアップサイクルに取り組んでいる青森ねぶたのねぶた師、福士裕朗氏を講師として招き、アップサイクル用にねぶた絵を提供していただいてコーヒーの香り袋の製作を行った。

1. 一回目の授業 11月24日（金）

講師の福士氏には、これまで手がけたねぶたの製作過程やねぶた絵のクリスマスツリー等、アップサイクルした事例を紹介していただいた。香り袋の製作時には、生徒に声をかけていただいたり、手を添えて一緒に活動していただいたりしながら、生徒の実態に合わせた方法でねぶた絵から様々な形の袋を作った。そこに、コーヒー豆を入れ、コーヒーの香り袋として完成させた。



この授業で製作したものは、12月に開催した高等部祭に展示し来場者から感想やアドバイスをいただくことができた。



2. 二回目の授業 12月18日(月)

高等部祭の来場者からのアドバイスをもとに、コーヒー豆を挽く、紙に小さな穴を空けるなどの改良を加え、生徒それぞれの方法で香り袋を製作した。福士氏からは、うきよ絵の端切れなど小さな紙片でも切り抜いて貼ることで、もっと面白い模様ができることなど、可能な限り工夫してアップサイクルにつなげようとする大切さを教わることができた。授業の最後に生徒たちは自分の作品を披露したり、香りを確かめてみたりして完成を喜んだ。

